

見る聞く考えるやってみる授業 ― 25

仮想日本旅行

セントマイケルス・ユニバーシティ・スクール初等部日本語教師(カナダBC州)

宅間ラーセン 穎子



セントマイケルス・ユニバーシティ・スクール(St. Michaels University School、以下SMUS)初等部は、私立の国際学校で、幼稚園から5年生までの生徒が日本語を勉強しています。私は、子どもに日本語を教えるときに、彼らの身のまわりの関心事を授業のテーマとし、そこから学ぶべき日本語を選ぶように心がけています。また、子どもたちの五感に訴えると効果的です。そして、学期や年間を通じたプロジェクトを行い、「この勉強をしたら、こんなゴールが待っているよ」とはじめに大きな目標を示し、子どもに達成感を感じさせながら進めるようにしています。

次に、文化の取り入れ方にも気をつけています。ことばと文化は分けられないので、日本語の授業で日本文化を取り入れるのは自然なことだと思います。ただ日本文化だけについて話すのではなく、さまざまな背景を持つ子どもたちの多様な文化も尊重することを忘れないようにしています。日本の文化と彼らの文化を比較したり、子どもたちにお国柄や文化を紹介するShow and Tell(品物を見せながらそれについて説明する発表の方法)もさせます。

最後に、できるだけ校長先生やほかの先生、保護者、地域の人たちに日本語を学ぶ子どもたちの様子が伝わるようにしています。日本語教育に対する理解を進めるとともに、子どもにとっては学習したことの発表の機会にもなります。ほとんどの大人はまったく日本語がわからないので、子どもたちが日本語をつかうととても驚き、誇りに思うようです。教室の外でも多くの人に認められることで子どもたちは自信をつけます。

このような授業の例として、3年生の1年間で行った「仮想日本旅行」プロジェクトを紹介します。

1年の目標として

まず、「1年の終わりに『仮想日本旅行』に出かけます。そのために必要な日本語を勉強しましょう」と話します。おもしろかったのは、「仮想」にもかかわらず、3年生の子どものなかには、現実と混同してしまう子がいたことです。「ぼくは日本に行きたくないけど、どうしよう」と相談してくるので、「行くか行かないかは当日決めてもいいわよ。でも、行きたくなったときに困らないように、必要な日本語はみんなといっしょに勉強しておきましょうね」と説得(?)して授業をすすめました。

パスポート、移動手段、お金

具体的には、旅行に必要な「パスポート」「移動手段」「お金」を三つの柱として勉強します。教師作成のSMUSの校章入りパスポートを「発行」し、自分の写真を貼らせませす。パスポートに書くため、子どもたちは自分の名前をカタカナで書く練習をします。また、「とし」「がくねん」「～じん」「ぼく／わたしのゆめ」「かみのけのいろ」「めのいろ」「すぎなたべもの」「おたんじょうび」などを書く欄もあるので、必要な表現を学ぶことができます。

国籍の書き方を勉強しているとき、興味深かったのは、クラスの3分の1の子どもたちはカナダ国籍ではなく、ヨーロッパ、アジア、アメリカなどさまざまな国籍だったことです。移民国家であるカナダについて、子どもたちと改めて考えることができました。

次に、移動手段を考えさせます。ビデオで日本の新幹線を紹介したあと、子どもたちに自分の夢の乗り物の絵を描かせ、発表させました。ここでは子どもたちの想像力が全開し、「飛ぶめがね」「魔法のえんぴつ(テストや宿題を勝手にやってくれる。乗って飛ぶこともできる)」など、おもしろい乗り物が続出しました。

2学期は、お金をテーマに、数の数え方や、買い物に必要な表現を教え、おもちゃのお金や折り紙の財布を作らせませす。3学期はいよいよ旅立ちに向けて荷造りです。かばんは、風呂敷に包んだ靴の空き箱です。ここで風呂敷について紹介します。また、持っていく荷物を考えさせ、絵に描かせませす。枕、毛布(眠りにつくとき触るため)、日焼け止めクリーム(学校の休み時間にも必ず塗らせる)、ぬいぐるみ、クレジットカードや自分の小切手(小学校3年生ですよ!)など、子どもたちの生活ぶりがうかがえておもしろく思いました。また、日本の友だちへのおみやげとして、カナダの本やカレンダー、ビーバーや熊などのぬいぐるみ、アイスホッケー・バスケットボールの関連グッズ、メイプルシロップなど、カナダについてもいろいろ考え、彼らにとって大切なものを挙げてくれました。

空港からの旅立ち

旅行に出発するまえに、保護者に「3月8日午前11時のフライトで日本に出発するので、可能な方はSMUS国際空港に8時半に見送りに来てください」と正式な案内状を出しておきます。子どもたちはかばんに思い思いの荷物を詰め、空港(学校の体育館)に集合します。高学年の子どもにも英語、フランス語で空港の

アナウンスを頼んで臨場感を出したためか、子どもたちは「お金、足りるかな」「日本にスリはいないの」と仮想旅行ということも忘れて少々緊張気味でした。

日本への入国手続きでは地元の日本人に職員の役を依頼し、「お名前は」「将来の夢は」など、これまで学んできた日本語を使えるような簡単なインタビューをしてもらいました。スタンプの代わりに、インタビューの評価にもとづいて寿司のシールをパスポートに貼ってもらいます。

空港を出ると、私が添乗員として子どもたちを引率して買い物にいき、画用紙に描かれた「品物」を選びます。人気が高かったおみやげは、アイボ、ゲームボーイ、カメラなどのハイテク機器、ドラえもん、ポケモン、トトロなどのアニメキャラクターのグッズでした。

友だちに買い物のお金を貸してあげる子、家族一人ひとりに

おみやげを買う子、友だちが風呂敷を包むのを手伝う子など、仮想旅行にもかかわらず、子どもたちの素顔がうかがえる旅行でした。教室に戻った子どもたちは、それぞれ「旅」の思い出話に花を咲かせていました。

外国語の授業と「旅行」

この授業では、ふだんの教室から場所を移すだけで、子どもたちは日常生活とはまったく違う世界を体験できました。「旅行」は子どもにとってはわくわくするイベントです。日本の生活や文化を無理なく紹介しつつ、子どもたちに自分の家、家族、町、国について考えさせることができ、グループ旅行という想定で協調性など集団生活におけるマナーを学ばせることもできます。外国語を学ぶ意義のすべてをこの授業に見出すことができると考えています。

授業計画 (❖印は日本語学習)

I 1学期

テーマ:パスポート

- ❖名前(カタカナ)「とし」「がくねん」
- ❖「～さいです」
- ❖「～ねんさいです」
- ❖「～じんです」
- ❖「ぼく／わたしの(ゆめ／かみのけ／め／すきなたべもの／おたんじょうび)は ～ です」

テーマ:移動手段

- ・新幹線の紹介(ビデオ)
- ・夢の乗り物の絵を描く

II 2学期

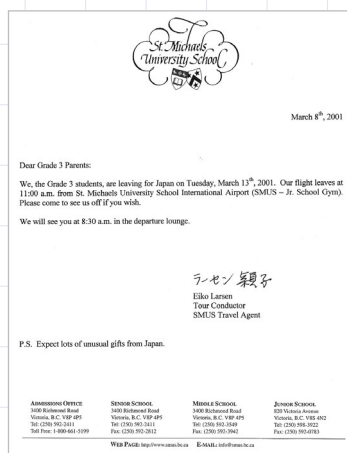
テーマ:お金

- ❖1から999までの数の数え方
- ❖買い物の表現「これは何ですか」「いくらですか」「これをください」
- ❖円とドルの換算
- ❖「円」「ドル」「ユーロ」などの通貨単位
- ・円の由来
- ・おもちゃのお金、折り紙の財布を作る

III 3学期

テーマ:旅立ち

- ・風呂敷の包み方
- ・持っていく荷物を考えて絵に描く
- ・日本の友だちへのおみやげを考える
- ❖仮想日本旅行



保護者への案内状



入国手続き



教師作成のパスポート



夢の乗り物
「飛ぶめがね」



スーツケースの枠内に描かれた荷物